

5. 事業の概要

(1) 学園共通

① 地域から選ばれる学校づくり

- ア. 組織的な取組により、教員の教育力の向上、教育の質の向上を図りました。
- イ. 教職員が、教育支援、学生生活支援、就職・進路支援において、きめ細かな指導やサポートを行いました。
- ウ. 授業評価・授業アンケートにより、学生・生徒の授業についての満足度の把握と、満足度向上のための授業改善に向けた対策を行いました。
- エ. 学生・生徒のボランティア活動、自治体や団体等からの研修会講師派遣及び各種委員や役員等の受諾などにより、地域における活動を行いました。
- オ. ホームページにおいて学校からの情報発信の充実を図りました。
- カ. 熱中症対策の実施や落雷情報の共有などによる安全管理を行いました。
- キ. 教育環境に必要な整備を行いました。
- ク. 大学・短大においては、第三者評価を受審し、大学は「適合」、短大は「適格」と認定されました。高校においては、学校評価（自己評価）を実施しました。

② 本学の特色ある教育や成果を前面に押し出した募集広報活動

③ 短大の平成 31 年度からの学生募集停止の決定

短大の今後を検討する中で、平成 31 年度からの学生募集を停止することといたしました。

- ア. 短大は、学生募集の停止及び今後の対応(平成 30 年度の入学生を含めたすべての学生に対し、卒業に至るまで現在の教育環境を継続し、卒業生にも支障がないよう対応していく)について、在学生、平成 30 年度入学予定者、保護者に報告し、併せて同窓会、実習幼稚園や保育所、関係機関等にも報告しました。また、近隣の高等学校にも文書を送付するとともに、訪問による説明も行いました。
なお、文部科学省への学生募集停止の報告は、29 年 11 月に行いました。
- イ. 高校は、短大との連携及び保育分野への進学支援を継続的に実施し、在校生を全力で支援することを、生徒・保護者に対して説明しました。

(2) 大学

本学は、公益財団法人日本高等教育機構による平成 29 年度大学機関別認証評価の結果、適合していると認定されました。

教育・研究活動、学生生活支援活動、就職・進路支援活動の成果により、入学者は前年より増加しました。

① 教育・研究活動

ア. 専門教育の充実

平成 28 年度からのカリキュラム改革の流れを引き継ぎ、専門教育の充実に努めました。

イ. 組織的 FD

FD 研究会を開催し、教員による他の教員の講義見学を踏まえて、改善点について意見交換をしました。

ウ. 資格取得

MOS、ニュース時事能力検定では多数の合格者を出しました。

エ. フィールドワーク科目履修状況

アクティブラーニングとして設定したフィールドワーク科目は、学生の関心が高く、多数の学生が履修しました。

オ. 教育指導に対する学生の評価

継続して、前期・後期の授業評価を行いました。理解度・満足度ともに、ほとんどの学生が「理解できた」「やや理解できた」、「満足」「やや満足」と評価しました。

カ. 地域の高等学校との高大連携授業

高大連携授業に多数の高校生が受講しました。

キ. 保護者懇談会

保護者懇談会を 11 月に実施しました。

ク. 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習を 8 月に実施しました。

ケ. 研究活動

専任教員は、それぞれの専門性に沿って研究活動を行っています。その成果は所属学会や「関東学園大学経済学紀要」「関東学園大学紀要 Liberal Arts」等において発表されました。

また、学術振興財団助成金に応募・申請し、採択されたほか、科学研究費補助金を利用した研究を継続しています。

② 学生生活支援活動

ア. 健康管理

学生委員会がセミナーや演習の担当教員や学生支援センター等と情報の共有を図りつつ、健康診断受診の督促を行い、大学の各種掲示板に、健康管理に関する情報を積極的に発信しました。

また、平素の生活習慣病の改善指導、心的支援及び生活相談の充実に努めました。

イ. 安全管理

熱中症対策の実施や落雷情報の共有などにより、安全管理に努めました。

ウ. 課外活動支援

クラブ、同好会、推奨部活動の支援を行いました。

③ 就職・進路支援活動

ア. 組織的な進路支援

教職員の密接な調整のもとにキャリア関連科目を実施しました。模擬面接を行い、就職試験時の面接に対する学生の対応力の向上を図りました。

タイムリーな就職情報を学生に提供しました。

イ. 就職・進路支援成果

就職支援等を強化し、就職希望者のほとんどが内定を得ました。

④ 学生募集活動

全教職員の共通認識のもと、多角的に以下の施策を実施しました。

ア. 高校訪問

イ. 日本語学校・専門学校訪問

ウ. 進学説明会

エ. オープンキャンパス

オ. 出張授業

⑤ 地方創生研究所

平成 27 年度に創設した研究所は、地方創生に関する研究及び地方創生を推進し、地方の発展に寄与することを目的とし、以下の施策を実施しました。

ア. 県や市町村からの依頼を受け実施

「群馬県やま・さと応援隊」「太田市 新田山グローバル人材育成事業」「太田市 ふれあい推進事業」「大泉町行政外部評価事業」「フィールドワーク（伊豆熱川・渋川伊香保）」「日本語教育に関する市民講座」など

イ. 総務省の協力を得て実施

「地方創生フォーラム群馬」

⑥ 教育環境の整備

ア. 施設

- 建物自体の長期安定使用を図るために、一部建物の外部建具改修工事を行いました。
- 防災機能等強化の対策として、私立学校施設整備費補助金を活用し、一部建物の天井・外部建具改修工事を行いました。

イ. 情報基盤

- 食堂に、無線 LAN 環境を導入しました。
- 学生向けポータルサイト eSquare のスマートフォン専用パッケージを導入しました。
- マルチメディア教室の機器を整備しました。

(3) 短期大学

- ① 平成 29 年度第三者評価の結果（一般財団法人短期大学基準協会）、適格と認定されました。
- ② 本学の今後を検討する中で、平成 31 年度から学生募集を停止することになりました。募集停止の件は、在学生、平成 30 年度入学予定者、保護者に報告し、併せて同窓会、実習幼稚園や保育所、関係機関等にも報告しました。また、近隣の高等学校にも文書を送付するとともに、訪問による説明も行いました。

① 教育・研究活動

- ア. 組織的な教育支援
専任教員と非常勤教員による全教員会を 2 回開催し、教育方針、授業改善及び学生指導に関する協議を行いました。
- イ. 資格取得
幼稚園教諭免許、保育士資格の取得希望者に対する教育支援の結果、多くの学生が免許・資格を取得しました。
- ウ. 教育に対する評価
- ・授業評価
2 回の授業評価を実施し、ほとんどの学生が「十分満足」と「ある程度満足した」と評価していました。
 - ・授業改善
全教員に、学生の授業評価に対する改善報告書の提出を求め、教育内容の質的向上と学生の満足度向上に努めました。
 - ・学生意識調査
入学者時の意識調査により学生支援の参考としました。また、卒業時の調査では、学生生活にかなり満足度が高い結果となっております。
- エ. フィールド科目履修状況
フィールド科目に対する学生の関心及び満足度は高いものでした。また、多くの学生が関連資格を取得しました。
- オ. 附属高等学校との高大連携授業
高大連携授業に多くの高校生が参加しました。
- カ. 教育懇談会
1、2 年生ともに保護者向け教育懇談会を実施し、学生指導の参考としました。
- キ. 研究活動
専任教員は、それぞれの専門性に沿って研究活動を行っており、その成果は所属学会や「関東短期大学紀要」等において発表しました。
また、科学研究費補助金や外部研究費等に、応募・申請し採択されました。

② 就職・進路支援活動

- ア. 組織的な進路支援
教職員の調整のもとにキャリアサポートの授業や進路支援講座を実施しました。また、模擬面接を行い、就職試験に対する学生の対応力の向上を図りました。
- イ. 就職・進路支援成果
就職希望者全員が内定しました。

③ 学生募集活動

全教職員の共通認識のもと、オープンキャンパスや高校訪問、進学説明会、出前授業等、多角的に各種施策を実施しました。

④ その他

ア. 地域連携

行政機関をはじめ、各種団体等から研修会講師派遣の依頼が多数あり、その他、自治体や団体等から各種委員や役員等の委嘱を受諾し、地域貢献に積極的に取り組みました。

イ. こども研究センターの活動

- 講師派遣
育児講座への講師派遣、保育所や幼稚園等への講師を派遣しました。
- 出前授業の実施
県内外の高校へ講師を派遣しました。
- 公開講座・子育てルーム
公開講座に加え、幼児とその保護者対象の「子育てルーム」を実施しました。

ウ. ヴェルボトナル言語教育研究所の活動

- 言語指導
館林市及び仙台市の児童への言語指導を行いました。
- 理論・技法の研究
所員による研究会や保護者等を含めた特別研究会を開催しました。
- ヴェルボトナル法（VT 法）の普及
幼稚園や保育所との交流により VT 法の普及に努めました。

⑤ 教育環境の整備

ア. 施設

- ピアノホール床張替工事を実施しました。
- スチューデントホール、ピアノホール練習室の空調機を更新しました。

イ. 情報基盤

- スチューデントホールに、無線 LAN 環境を導入しました。
- 学生向けポータルサイト eSquare のスマートフォン専用パッケージを導入しました。

(4) 高等学校

① 教育・研究活動

ア. 授業の充実と学力向上

- 授業交換を適切に行い、授業確保に努めました。
- 授業アンケートを実施し、わかりやすい授業展開の工夫に努めました。
- 補習・課外授業や学習合宿を実施し、生徒の理解度の向上に努めました。

イ. 教員資質の向上

- 全教員が授業公開を行い、授業改善に努めました。
- 各教科で研究授業を行い、合評会における指導方法などの意見交換により、授業改善に努めました。
- 校内教員研修を行い、教員資質の向上に努めました。
- 群馬県教育委員会や群馬県総合教育センター主催の研修に参加しました。
- 教育顧問による授業観察を実施しました。

ウ. 国際交流の充実

ワカティブ高校（ニュージーランド）への短期留学を実施しました。

エ. 学校評価の実施及び公表

学校評価（自己評価）を実施しました。
生徒・保護者に家庭通信を通じて公表しました。

オ. 特別活動

部活動加入率の増加に努めました。

② 進路支援活動

外部模試による学力の測定、課外授業、学力検討会、志望校検討会、センター試験出願説明会、学習合宿、学科研究、進路講演会、職業講話、就職支援、資格取得支援などを実施しました。

③ 生徒募集活動

学校説明会、中学校訪問・塾訪問、地区別説明会、中学校への出前授業、本校入学者・他校入学者へのアンケートなどを実施しました。

④ 教育環境の整備

ア. 施設

- 北グラウンド等のグラウンドを整備しました。

イ. 情報基盤

- 業務システムサーバを刷新しました。
- コンピュータ教室教卓 PC の共有システムを刷新しました。